

第3部 容器包装リサイクル法に ついての意見



容器包装リサイクル法の問題点

問題点1

法による「容器・包装」の定義が市民感覚に合わない

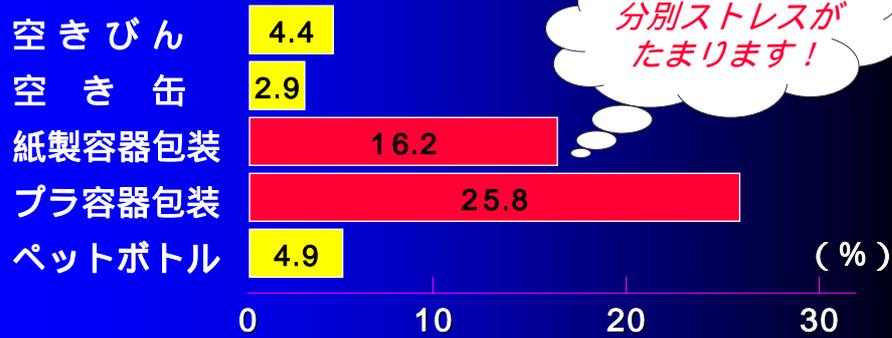
同じ素材、同じ形なのに、どうしてアレはよくってコレはダメなの？

買ったシャツの袋 クリーニングに出したシャツの袋 ×
スーパーの肉や魚のラップ 家庭で使ったラップ ×
飲料パックのストローの袋 ストローそのもの ×

分かりやすい「素材別リサイクル」
に改善すべき

分別の分かりにくさ

「分別に苦労している」と答えた人の割合



平成13年8月実施「市政モニターアンケート」結果から
(市内に居住する満20歳以上の市民)

19

資源回収率

「容器包装」か「ごみ」か迷ったら資源収集へ!



資源回収率は、「資源回収量 / (ごみ量 + 資源回収量)」
家庭ごみ細組成調査及び市資源収集量等からの推計値

20

容器包装リサイクル法の問題点

問題点2

分別ストレス!

複合素材の容器包装が多く、素材が区別できない

- レトルトパック（プラ）、カップラーメンのフタ（紙）

分別・リサイクルに配慮がされていない

売った後のことに配慮が足りない

実際に分ける消費者への「分別・リサイクルへの配慮」が促進される制度へ
素材や規格の統一化

21

いろいろな素材からなる容器包装



22

容器包装リサイクル法の問題点

問題点3

事業所から出る容器包装廃棄物の位置付けがあいまい

家庭では分別、
会社ではごみ

個人消費向け商品の容器包装は、事業所から排出された場合でも、「容器包装リサイクル法」ルートに乗せられるようにすべき

23

容器包装リサイクル法の問題点

問題点4

市町村が「資源化貧乏」になりかねない

特定事業者負担が小さく、発生抑制の動機付けが弱い（大量リサイクルの懸念）

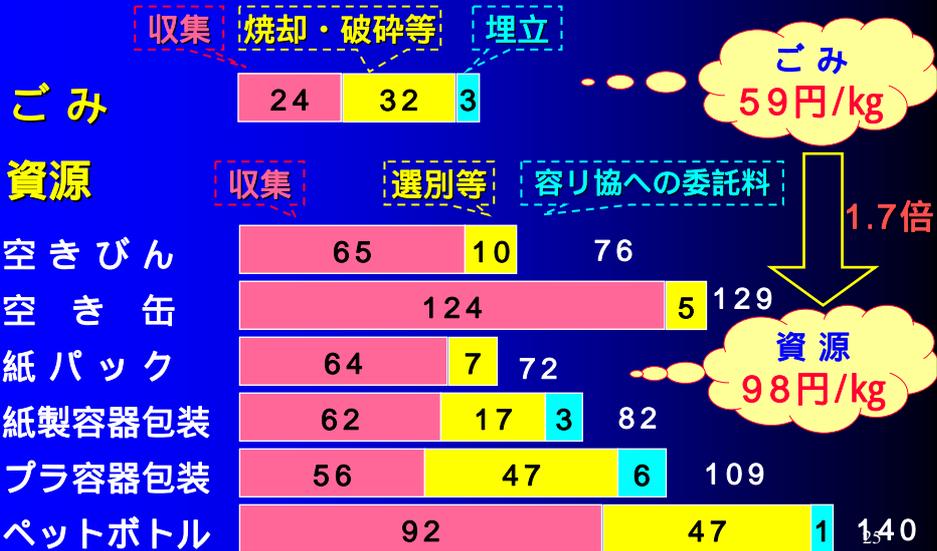
「全ての静脈コストを事業者負担」とし、「収集・選別を市町村が分担する場合には、委託料等の形で補填」とすべき

24

市町村が「資源化貧乏」に？

(円/kg、用地取得費以外は全て含む)

(平成14年度)



市町村と事業者の負担割合は？

【ペットボトルの例】

(平成14年度)



* 名古屋市の収集量に対するキログラムあたり単価

* 選別等経費には小規模事業者分の再商品化委託料の肩代わり分を含む。

処理費（決算）の変化

（施設費は含まず）

資源 収集15.3億円、選別等0.5億円、容リ協会負担0.03億円

平成

10年度	ごみ収集処理 254億円	16	270億円
11年度	251億円	23	274億円
12年度	246億円	51	297億円
13年度	216億円	79	295億円
14年度	199億円	73	273億円

資源 収集53.8億円、選別等17.6億円、容リ協会負担2.1億円

厳しい財政状況に対応するため、
ごみ・資源共に約7%経費を圧縮

まとめ

課題と解決策

課題1 市民に分かりにくい分別

< 解決策 >

市民の視点

- ・ 分かりやすい素材別リサイクル
- ・ 素材や規格の統一化
- 資源化率のアップ、質の高いリサイクル、発生抑制の促進

まとめ

課題と解決策

課題2 資源化貧乏

- ・リサイクルすることにより、ごみ処理の約1.7倍の負担
- ・資源化に熱心な自治体ほど財政負担が重い

課題3 生産・販売段階での発生抑制の動機付けが不十分



< 解決策 >

拡大生産者責任の徹底

- ・収集・選別も事業者責任、事業者負担とし、リサイクル費用を製品価格に反映

取り組み地域の拡大

まとめ

さらには・・・

大量リサイクル社会からの脱却

- ・発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）の促進のための法整備



たとえば、経済的手法の活用

- ・デポジット制度
 - ・環境税
- など

名古屋市のレジ袋・紙袋の削減運動

発生抑制の第1弾

エコクーひ



市民・事業者との協働により
「環境首都なごや」を目指します



ありがとう
ございました



- 名古屋市 -